

利用・用途・応用分野

無料開放特許

家畜の繁殖用ホルモン製剤、ホルモン感受性癌の予防・治療・転移抑制剤

目的・課題

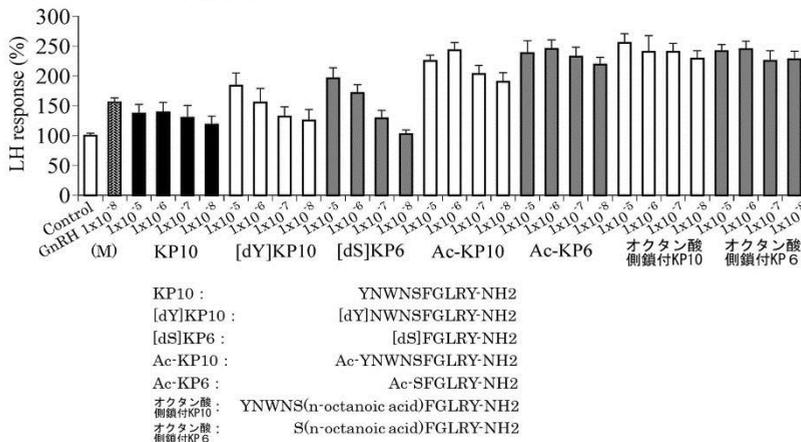
家畜の繁殖にて、発情同期化・過排卵処置に多用されてきた異種のホルモン製剤では、反復投与によって抗体が作られ、結果的に製剤の効力が低下してしまうという問題があったことに鑑み、この問題に対する優れたホルモン製剤、またはホルモン感受性癌の予防・治療及び転移抑制剤としてより作用の強いキスペプチン剤を提供することを課題とする。

解決ポイント

キスペプチンの活性中心である構成アミノ酸を特定の修飾基で修飾することにより、ウシ下垂体前葉細胞からのLH分泌量の指標において、予想外にも天然型キスペプチンより優れた生理活性を示すペプチド誘導体を見出し、本発明を完成するに至った。

研究概要・アピールポイント

様々な修飾条件下キスペプチン刺激による培養ウシ下垂体前葉細胞からのLH分泌反応を指標としたキスペプチン活性評価結果



より生理活性の強いキスペプチン剤を用いると、家畜の繁殖における交配技術の向上、ホルモン感受性癌の予防・治療及び転移抑制が期待される。発情同期化・過排卵処置に多用されてきた異種ホルモン製剤の反復投与による好ましくない免疫反応の誘発や、結果としておこるホルモン製剤の効力低下が回避可能となり、より侵襲性が低く、畜種や投与回数などに制約のない優れたホルモン処置プログラムやホルモン製剤の開発が可能となる。

◆ お問い合わせ先 ◆

有限会社山口ティー・エル・オー TEL: 0836-22-9768 E-mail: tlojim@yamaguchi-u.ac.jp